

令和4年度 学校評価アンケートの結果について

	No	評 価 内 容	評定平均		R4 平均	R3 平均
			地 域	保 護 者		
子 ど も の 様 子	1	子どもは、学校に行くのを楽しみに元気に登校している。	4.0	3.3	3.7	3.6
	2	子どもは、早寝、早起き等、規則正しい生活をしている。	3.7	3.2	3.5	3.3
	3	子どもは、靴並べ等、整理整頓ができる。	3.8	2.7	3.3	3.3
	4	子どもは、挨拶・返事・お礼を言うことができる。	3.7	3.3	3.5	3.3
	5	子どもは、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.5	2.9	3.2	3.1
	6	子どもは、自分や他の人の命を大切にし、優しく思いやりがある。	3.8	3.5	3.7	3.7
教 師 の 様 子	7	先生たちは、明るく元気で相談しやすい。	4.0	3.1	3.6	3.5
	8	先生たちは、子どものことを理解し、授業もわかりやすい。	3.8	3.1	3.5	3.5
	9	先生たちは、子どもたちに生活のルールを身に付けさせたり、学力を向上させたりしようと努力している。	3.8	3.3	3.6	3.6
学 校 の 様 子	10	学校は、命に関する教育や環境づくりをしたり、子どもが生き生きと活動できる活動内容を工夫したりしている。	4.0	3.1	3.6	3.5
	11	学校は、地域との連携を図っている。	3.7	3.4	3.6	3.7
	12	学校は、めざす子ども像の実現や子どもの夢の実現のために工夫や努力をしており、その教育活動に満足している。	3.7	3.1	3.4	3.4
	13	学校は、人権教育を推進し、人としての尊厳と責務を重んじる教育をしている。	3.5	3.2	3.4	3.5
	14	学校は、安全に気を配り環境が整っている。	3.7	3.4	3.6	3.7

評定平均は、(4 : よくあてはまる 3 : ややあてはまる
2 : あまりあてはまらない 1 : 全くあてはまらない) の合計の平均。

(1) 結果について

○ほとんどの項目においておおむね肯定的な評価だったが、以下の項目については昨年度よりポイントが下がっていた。また、ポイントは上がっているが、長年低いものもあり今後継続して改善していく必要があるとの結果となった。

(ポイントが低いもの)

- 3 「子どもは靴並べ等、整理整頓ができる」
- 5 「子どもは意欲的に学習に取り組んでいる」

(昨年度よりポイントが下がっていたもの)

- 11 「学校は、地域との連携を図っている」
- 13 「学校は、人権教育を推進し、人としての尊厳と責務を重んじる教育をしている」
- 14 「学校は、安全に気を配り環境が整っている」

(2) 今後の取組について

①学校でさらに力を入れて取り組んでいくこと

○「「やってみたい」と自ら進んで取り組み、「できた」喜びを味わわせる授業づくり

子どもたちに「確かな学力」を付けるために一人一台端末の活用やユニバーサルデザインの導入など一人一人に応じた指導について研究を重ねている。また、子どもたちが安心して、そして集中して学習ができるよう、「学習規律の徹底」や「互いを認め合う仲間づくり」にも力を入れている。今後も一人一人の特性や能力を見極めながら、意欲をもって取り組み、「できた」喜びを実感できるような授業づくりに努めていく。

○家庭学習の習慣化

学習状況調査や生活アンケートによると本校の子どもたちは、家庭学習に取り組む時間が短く、メディアを使用する時間が長い傾向にある。また、全国・県・市の学力調査のいずれにおいても本校の正答率は、佐世保市全体の平均値を下回っており、私たち教職員はこの結果を大変深刻に受け止めている。特に「学習の土台となる基礎基本の力に課題が見られ、このことが「5学習意欲」にも大きく影響しているもの」と考える。

基礎基本の力は、繰り返し練習した分だけ、確実に身につけていく。学校での繰り返し学習ではなかなか定着に時間がかかる。家庭の協力を得ながらしっかりと「基礎基本」の力を付けさせたい。

「学びに向かう意欲」や「確かな学力」は子どもたちの未来（進路の選択）にかかわっていくものである。学校でも、学びたくなる授業・わかる授業となるよう工夫を重ね、その学びを確かなものにするためにも「家庭でも学習する習慣」「忘れ物をしないよう学習準備をする習慣」をぜひつけさせた。

○一徳運動「はっきりあいさつ、りっぱな靴並べ、おもいやりの言葉づかい」の徹底

「整理整頓」については保護者の皆様の評価が例年低い項目である。「整理整頓」を「周りの人への気遣いや配慮」の表れであると考えている。そして、整理整頓を通して「次のことを考えて行動する力」や「面倒なことでも最後までやり通す粘り強さ」を身に付けさせたい。また、「あいさつ」は他者との関係を築くために欠かせないスキルであり、「自ら主体的に行動する積極性」を育成する上で大切なものでもある。

これからの予測困難な未来を生き抜くためには「困難を乗り越えようとする粘り強さ」「他者を思いやり、自らを律する規範意識」「様々な考えを持つ人々と協働するコミュニケーション力」といった「より良い人間関係を築く力」が必要である。その基本となる本校の一徳運動「はっきりあいさつ、りっぱな靴並べ、おもいやりの言葉づかい」について、今一度、皆様と共通理解を図り、一緒に取り組んでいきたいと思う。